

聴くオフ・ミーティング報告書

テーマ **住み慣れた杉並のまちで安心して暮らし続けるために
～住まいのセーフティネットについて考える～**

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする区政を話し合う会「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。

令和6年12月14日は、「住み慣れた杉並のまちで安心して暮らし続けるために～住まいのセーフティネットについて考える～」をテーマに、一般公募と無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた33名の方と、話し合いました。

区長から

年末のお忙しい折、聴くオフ・ミーティングにご参加いただきまして本当にありがとうございます。今日は、「住み慣れた杉並のまちで安心して暮らし続けるために～住まいのセーフティネット～」について、皆さんと意見交換をしたいと思います。私は就任してから一貫して皆様との対話を大事にしてきました。これまで、学校給食の無償化、多文化共生など様々なテーマについて、このミーティングをはじめ、あらゆる機会をとらえて皆さんと話し合ってきました。その結果、それぞれの施策を形作ることができたと感謝しております。今日のテーマ「住まいのセーフティネット」は、健康で文化的な生活を営む上での基礎となる重要な要素です。住み慣れたまちに暮らし続けるために、どのような支援策が必要なのか住宅課からの説明のあと、皆様と一緒に話し合っていきたいと思います。



住宅課からの説明



今回のテーマである『住まいのセーフティネット』とは、住まいを確保することが困難な人々に対して、住宅の確保や居住を支援する仕組みのことをいいます。

住まいは、人々の生活を支える基盤であり、安定した居住を確保することは、健康で文化的な生活を営むうえで欠かせない要件です。区内には、総世帯数を上回る住宅があり、空き家やマンション、アパートの空き室など、居住者がいない住宅が年々増加しているにもかかわらず、依然として住まいの確保に困る人がいることが問題になっています。令和3年度の国土交通省の調査では、約7割の大家が、近隣トラブルや居室内での死亡事故、家賃滞納による事務対応の負担が増えることから、高齢者や障害者などの入居受け入れに拒否感、不安感を感じていること。その他、子育て世帯に対しても、約2割の大家が騒音などから拒否感を感じているという結果が出ています。区内には十分に住宅があるのに、「住まいのセーフティネット」が問題になることの答えがここにあると言えます。実際、住宅課の窓口には、高齢であることや、身体や精神などの障害、子供の足音等による騒音、本人の収入状況など、様々な理由で住まいの確保が難しくなった方から、日々、相談が寄せられています。こうした方々の住まいを確保するには、高齢者の見守りサービスなどの支援により、大家の拒否感、不安感を緩和し、住まいに困っている人が入居しやすい状況を作っていくということが重要になります。区の推計によると、高齢者人口の割合は今後継続的に増加し、令和52年には4人に1人以上が高齢者となると見込まれます。また、コロナ禍では、職を失い、これまで通りの生活が維持できないケースや居住が不安定な状況に陥りやすい方が実は多いのだということが顕在化しました。このことからしても施策の必要性が裏付けられます。区では、これまでも住まいにお困りの方への居住支援に取り組んできました。また、現在、新たな居住支援の取組として「家賃助成制度」を検討するなど支援策の充実に向けて取り組んでいます。誰もが住み慣れた杉並のまちで安心して暮らし続けるために、区はどまでどのような支援をするべきなのか、本日は皆様にアイデアやご意見をいただきたいと思っております。



◀◀◀ 第1回 10:00~12:30

第2回 14:30~17:00 ▶▶▶

全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。以下は全体トークでの主な意見です。

- 参加者 学生向けの区営のアパートやマンションがあるとよい。生活に困っている友人も多く、賃金が低い状況の中で区としてやることに意義がある。
- 参加者 学生や若い方で杉並区に住みたい方は補助を受けたいと思うので、例えば、入学や就職で住まいを探している若い世代など、杉並区に居住を希望している方も補助の対象になるとよい。
- 参加者 私のアイデアは「プッシュ型支援」。区として様々な支援制度があるので、それを必要としている人に確実に届けられることが重要。ホームページや区報などで周知されていると思うが中々見ない方もいるので、一定の基準を設けて、区から支援が必要と思われる方に案内を出せるとよい。
- 参加者 「初期重点的段階的な家賃助成」を考えた。住み始めや引っ越しにかかる費用などに金銭的負担が一番かかる。また、財政的には長期間助成し続けることは難しいので、住み始めの初期に比較的大きい金額を重点的に助成し、生活の基盤が整い始めたら段階的に減らしていくのが一番効果的な助成のあり方。
- 参加者 グループ内にいろんな立場の住民の方や区の職員の方、家主さんもいて、いろんな質問や情報が得られ、すごく貴重なミーティングだった。今も発信されているが、広報がすごく大切だと思う。
- 参加者 高齢者のニーズを最も吸い上げやすいのがケアマネジャーなので、区とケアマネジャーが連携して高齢者に安心安全な生活を営んでもらう工夫も必要。



- 参加者 キーワードは「瞬間的低所得」。友人が仕事を辞めて家も失くし、すごく大変な思いをした。若くて仕事する意欲もある人が、友人のように瞬間的に困るときがある。そうしたときにカバーできるとよい。
- 参加者 低所得者に含まれない隠れ貧困世帯も支援をすべき。転出者に30代が多いのは結婚や育児が理由で、低所得者には含まれないが、育児を考えると杉並区に住めない隠れ貧困世帯が存在している。そうした世帯こそ今後長く住んでくれるので、区に支援してほしい。
- 参加者 必要なのは高齢者が安心して暮らせる場所。高齢者に家を貸してその方が亡くなくても、大家さんが損をしないような助成や控除、損金計上できるなどの仕組みがあるとよい。
- 参加者 住宅支援の話ではあるが、結局、福祉サービスの話にも関係してくる。区役所では住宅課と福祉課は分かれているが、上手く連携して困っている人を多面的に支えられるシステムがあるとよい。
- 参加者 家賃助成が所得になり、税金がかかる場合があると聞いたので、入居者だけでなく大家さんへの助成も含めて検討してほしい。また、設備や家賃などの経済的助成だけでなく、入居環境や居住者自身の変化もあるので見守り制度を充実させてほしい。

- 参加者 お金の助成はできると思うが、大家さんが安心して住まいを貸せる体制整備が必要。区が実施しているサービスには、見守りサービスや家財撤去の支援がすでにあるのを今日初めて知ったので、もっといろんな人にも知ってほしい。広報にもっと力を入れるべき。
- 参加者 若い世代は住まいで困ったときに、とりあえず不動産屋に行くことが多いので、不動産屋から区のサービス内容を案内してもらうなど連携しては。



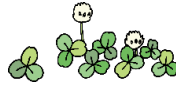
- 参加者 民間賃貸住宅を活用した居住支援の見守りサービスは最高。大家さんも入居者の方も安心して暮らし続けて、ハッピーな杉並区になる。
- 参加者 支援対象者は低賃金の方が多いと思うが、収入を上げていくための就業支援をしていくことが重要。
- 参加者 住まいの悩みについて、区の住宅課がいろいろなサポートや相談にのってくれることを今日初めて知りとても良かった。住宅課にあまり馴染みのない区民も多いと思うので、もっとみんなに住宅課を認知してもらえば、様々な悩みが解決できる。
- 参加者 引っ越し費用の支援をしてほしい。居住支援の中に敷金や保証料はあるが、引っ越し費用がなかった。困窮している人は、家賃の高いところから安いところに移ろうとしても、引っ越し費用がなくて移れない。
- 参加者 様々な制度や施策があるのに、どこに相談に行けばよいのか、誰に聞けばよいのか分からない。また、不動産屋を探していてもここでよいのか、分からないことが多い。住むことに関するコーディネーターを区が中心になって、いろんな人をつなぐような仕組みをつくってもらえるとよい。
- 参加者 住宅や家賃の支援は生活基盤の支援なので、支援してもらった方はすごく感謝して、杉並区に住み続けてくれると思う。例えば、介護離職や倒産で離職、あるいは病気で長期入院など、今困っている人を手厚く支援する。また、わざわざ外国から言葉を学びに来ている留学生など、将来、杉並区を愛してくれる方を支援する。
- 参加者 高齢者や低所得者はもちろん、それ以外の中間層の方々も、杉並区に住み続けるという点ではやはり住まいの支援制度を利用したい方も多くいると思うので、そうした方々にも利用できる新制度があればありがたい。

- 参加者 建築費や用地の確保、公営住宅の老朽化に伴う修繕や建て直しなど、様々なコストがあり非現実的だが、一番効果があるのは公営住宅の増設。
- 参加者 家賃が高騰すると様々な立場の人が住めなくなり、区の多様性が失われる気がする。だから多様性を保つためにも住宅政策は絶対必要。その人の立場に応じた支援を柔軟にすることが重要。高齢者は収入があっても入居を断られ、保証人が立てられないので、区がNPOと連携して保証人を引き受けてくれたら、大家さんも貸してくれるのでは。
- 参加者 杉並区は単身者用賃貸物件が増加傾向にあり、ファミリータイプは少ないと聞いた。単身者用でも家賃は高いがファミリータイプはさらに高く、借りる人も限られる。子育て世代はどこで住居を確保したらいいのかわからない。ファミリータイプが少ないのは個人の経済活動の領域なので、区ではどうすることもできない。
- 参加者 仕事で高齢者や障害者の方と関わっており、住宅は切実な問題。皆さんで集まって、それぞれが得意なことを生かして支えていく、そこに区の施策のことに詳しい方がいて、すぐに相談に乗ってもらい必要な援助を受けられるとよい。
- 参加者 次の世代を担う子どもたちが、健やかに育つ環境に少しでも協力できるとよい。子育て世帯が子どもの声など近所への迷惑を気にして住めないと聞かすが、子どもの声が全然平気な人たちが集まって支え合えるような、ストレスなく過ごせるコミュニティがあると気を使わないで安心できる。
- 参加者 どこが住みやすいか、地域の人達とどうしたら仲良くなれるのか、年を取って1人でなく同じような人と一緒に住みたいなどの相談に乗ってくれる課があるとよい。相談窓口の少し手前の情報を知っていてコーディネートしてくれると助かる。



区長の感想

生活の基盤である住宅は豪華でなくとも良質な住宅に、経済力にそれほど関係なく住めることが、街の豊かさだと私は思います。そうでなければ高額所得者しか都市に住めなくなり、都市の魅力、多様性が失われていきます。多様な人が助け合ったり、働いたり、子育てしたりし、サービスを提供したりしながら生きることが、街の豊かさだと私は思っています。住宅政策は長期的なビジョンに立って、住宅が都市における基盤として上記のような役割を担っていること（住宅の公共性）をしっかりと見つけていくことだと思います。



住まいのセーフティネットを所管する担当課から

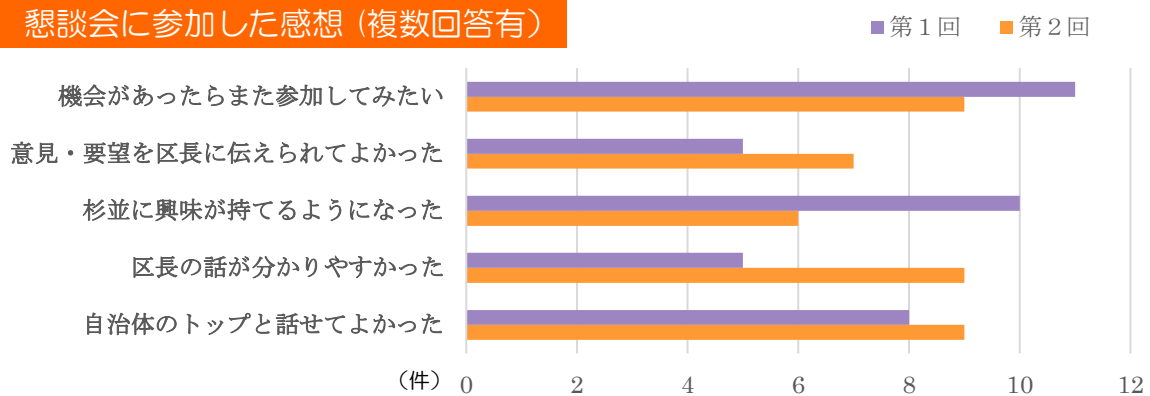
今回のテーマ「住まいのセーフティネット」は、聞き慣れない言葉であったかとは思いますが、とても活発に議論していただき、ありがとうございました。また、出席者の方から勉強になったとお声をいただき、担当としても非常にうれしく思っています。

「住まい」は、やはり生活の基盤ということで、住宅課には、住まいにお困りの方の相談が、日々、多く寄せられています。そういった方々に支援をしっかりと届けていきたいということで職員一丸となって業務を行っています。今日は、支援が不十分なところや新しい視点からのご意見をいただきました。

これまで実施している高齢者や障害者などへの支援だけではなく、若者への支援の必要性などの新たな気づきをいただけたと思っていますし、福祉と連携していくべきというご意見には改めてその必要性を実感いたしました。

本日いただいたご意見を参考にして今後もより一層、住宅施策を充実させてまいります。

懇談会に参加した感想（複数回答有）



令和6年12月14日 聴くオフ・ミーティング報告書

〈開催日〉 令和6年12月14日（土）
〈参加者〉 区民33名、区長、住宅課長ほか

令和7年1月 編集・発行 杉並区総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111

